

## 第 8 回 J A S 制度のあり方検討会の議事概要

平成 1 6 年 6 月 2 9 日(火) 1 4 : 0 0 ~  
日本郵政公社本社 2 階共用会議室 A ~ D

### 1 . 委員の出欠

委員 1 8 名中 1 6 名が出席

欠席者・・・岩田委員、山本委員

### 2 . 議事概要

#### ( 1 ) 第 7 回検討会で委員から出された意見の整理

( 資料 1 「第 7 回 J A S 制度のあり方検討会で委員から出された意見」を事務局から説明 )

#### ( 2 ) J A S 制度のあり方検討会 中間取りまとめ ( 案 ) について

( 資料 2 「 J A S 制度のあり方検討会 中間取りまとめ ( 案 ) 」を用いて、中間取りまとめの概要及び前回からの変更点を事務局から説明 )

座 長：前回特に議論のあった、「特色規格」、「標準規格」、「I 種格付のあり方」、「個別品目の名称規制のあり方」についてはできる限りの修正をしていただいた。

まず、「 J A S 規格のあり方」についてご意見、ご質問はないか。

委 員：まがい物の防止や品質の向上といった、これまで J A S 制度が果たしてきた役割は今後とも重要であり、制度のあり方の検討に当たっては、これらの趣旨を踏まえた上で対応していただきたい。さらに、新しい J A S 規格については、食の安全・安心の確保や新しい社会的ニーズに視点をおいて、これまで具体的な提案をしてきたところでありこれらについて、積極的に対応していただきたい。「標準規格」という名称では、「並」規格というイメージになり、事業者が採用しにくいのではないか。名前は重要なので、「標準規格」よりも「基本規格」のほうが良いと思う。新たな社会ニーズに対応した J A S 規格についても前向きに考えていただきたい。

具体的な修文としては、標準規格とする要件 ( p 4 ) において、表現を統一して、「水増し、まがい物」の次に「等」を入れていただきたい。規格廃止の要件 ( p 8 ) として、「品質の格差が小さい」場合に廃止されるというのは、業界として努力して格付率を高めると、格差が小さくなり廃止につながることであり、おかしいのではないか。検討の上、修正していただきたい。

事 務 局： J A S 規格の役割が終わったわけではない。「基本規格」については、名称や品質の「標準」そのものを定めることを主眼としている「標準規格」が適当だと考える。「水増し、まがい物」( p 4 ) の次に「等」が抜け落ちているというご指摘については、後段の表現と統一するため、修正する。品質の格差が小さくなると廃止されるのは厳しいというご意見については、今後どのようなかわからないという意味と受け取ったが、品質が一定のレベルに達したなら、

現状維持ではなく、より高いレベルへ規格を改正すべきだと思う。このような理由で、廃止の要件に合致していた場合の復活要件として、「改正により廃止の要件に合致しなくなることを」を補足した、

委員：消費者の立場から見ると、中間取りまとめの文章は非常に分かりにくい。分かりやすく直すことはできないか。登録認定機関のところ（p 11）では13行の間に「認定」が20個も登場する。また、段落を切れば分かりやすくなるのではないか。マスコミや多くの人が読んで理解できるように工夫すべき。

委員：特色規格の説明（p 4）と規格の見直し基準（p 8）において、特色規格の説明及び定義の書きぶりを統一すべき。p 8の書きぶりをp 4に反映させればよいのではないか。

また、「JASマークで消費者に製品を選んでもらうために、p 7の「マークの種類」の次に「デザイン」を加え、「視覚的に印象に残るような工夫を検討するのも一つの方策である」という表現は弱いので、「消費者に視覚的にアピールする方策を検討すべき」としていただきたい。また、JASのロゴマークは1種類とし、「特色」や「標準」は、ロゴマークに付記すればよいと思う。例えば、標準規格はロゴマークの下に「標準」と書き、特色規格については、特色の内容をロゴマークの上の方に、「有機」「情報開示」「うま味強化」等と書けばよい。強調表示は優良誤認を招きかねないので、マークに近接して強調表示する特色の内容についてはJAS調査会で検討し、類型化するのがよい。また、「推奨すること」も含めていろいろな方策を検討するという意味で、「推奨する」という言葉を3ヵ所削除されたい。

委員：規格廃止からの復活要件として「小売販売額が一定額以上」（p 9）は具体的にいくらなのか決めるのだろうか。事業者がどうしてもJASマークを付けたいと思っていたが、規格廃止によりマークが付けられなくなったとき、消費者からJASマークがなくなったのは品質が落ちたのではないかと思われる。こういうことに対する配慮が必要。

事務局：まず、段落を分けることについては考えてみたい。取りまとめを公表する際には、農林水産省の責任において分かりやすい概要とポンチ絵を併せて公表する。次に特色規格の説明は、p 4とp 8で統一するように修正する。JASマークに近接して表示する規格の内容については、JAS調査会で議論する。強調表示等をマークのそばに付することを全ての事業者に強制するのは無理かと考え、「推奨」とした。仮にマークのそばにウソが書いてあれば、品質表示基準の一般誤認防止ルールで取り締まる。マークのデザインや消費者にアピールすることについては、ご意見の趣旨を踏まえ修正する。

委員：文章はたしか分かりにくい。裁判の判決文みたいだ。中間取りまとめは、検討会が誰に対して出すものか明示すべき。これは取りまとめの中に書くと言うことではない。農林水産省の局長あてに出すものであれば内輪で通じるものでよい。一般に出すというものであれば、分かりにくいということは重大な問題。

事務局：この検討会は開催要領の第1の3にあるように消費・安全局長の検討会である。したがって、取りまとめは形式的には委員の皆様にご覧いただき、消

費・安全局長にご報告いただくというもの。しかしながら、検討会や資料はすべて公開されていることから、当然世の中に向けてのメッセージというものとなる。ただし、特に認証制度の見直しの部分等、そもそも内容がテクニカルなものなので必然的に難しい表現になってしまう。今日までの議論を正確に記述しなければならないという面と分かりやすさは相反するものであるが、できる限り内容を変更しないことを前提として修正したい。また別途、分かりやすく、コンパクトにしたものを国民へのメッセージとして使っていきたい。取りまとめは正確性を重視して行うことが基本と考えている。

座 長：中間取りまとめは例示を入れると大部となってしまうので、抽象的な記述となっているが、正確さとわかりやすさのバランスから、このあたりが限界なのではないかと思う。ここは了解していただきたい。あとは解説で対応するというので良いかと思う。

委 員：日本語とは思えない規格の文章と比べ、取りまとめはとても分かりやすくなっていると思う。また、意見を上手く取り入れていただいたので感謝。消費者に対して中間取りまとめとは別に分かりやすい概要等を出していただければよいのではないか。

委 員：流通の方法に関する J A S 規格（p 5）について、トレーサビリティを推進する観点から必要というのは分かるが、流通の方法に関する基準という部分が具体的なイメージがつかめず J A S になじむものなのか疑問。また、「制度を整備する」を「制度の整備を検討する」とすれば他の部分とも整合がとれてよいのではないか。

事 務 局：流通に関する規格の具体的な内容は今後検討することであるが、表現については、「制度の整備を検討」と修正する。また、廃止の要件の部分で、「一定額」と直したのは品目ごとに単価が異なるからであり、規格の見直し基準の議論の際に具体的な金額も検討することになる。J A S 規格が廃止されたことにより当該品目に J A S マークを付けられなくなった場合、消費者にどのように説明するかという問題は現在でも生じている。今回の考え方は概要や説明会を通じて広く伝わるようにしたいと考えているが、むしろ、今後の規格見直しの中で、規格の必要性を明確に整理できるものを残すことが重要ではないか。

委 員：「標準規格」よりも「基本規格」の方が分かりやすいのではないか。

委 員：他制度で basic standard を「標準規格」と訳しているものがあると記憶している。「基本規格」は最小限のもので「標準規格」はもう少し広く網羅しているイメージがある。

事 務 局：過去の検討会で、「ミニマム規格」と「エクセレンス規格」という言葉でご提案したとき議論が非常に混乱した。「基本」というとミニマムというイメージを持つ人が多いと思う。「標準規格」のほうが中身とフィットするものと考ええる。

委 員：「標準規格」は分かりにくい「名称・品質の標準化が必要なもの」として説明していけばなじむのではないかと思う。また英訳については、「特色」は specialized か special か迷った。「標準規格」は basic よりも general とか normal を考えたが、normal だと規格に適合しない場合が abnormal となってしまうので、

やはり basic がよいのかなと思う。

委員：アメリカの言語学の教授に相談したが specialized がよいとのこと。また、「標準規格」を広辞苑で見るとやはり「基本」とは意味が違う。したがって、basic standard は「標準規格」がよい。

委員：私も「標準規格」でよいと思う。標準規格とする場合の定義の書きぶり（p 8）については、「標準」は「基本」より広い概念なので、工夫する必要がある。

事務局：ご意見の趣旨を踏まえ、工夫したいと思う。

座長：「JAS規格の認証のあり方」について、ご意見、ご質問等はないか。

委員：I種格付について、全品検査はコストがかかるので全品検査以外の精度の高い検査も考えていただきたい。

事務局：おそらくサンプリングの数を増やすというイメージだろうが、ここは責任の所在を明確にする仕組みが必要なことから、最初はI種格付を廃止しようと考えていた。ただし、全品検査をするならば責任の所在が明確になるので例外的に認めることとした。これ以上の例外を認めることは難しい。

委員：趣旨はわかるが、「のみによる」という言葉がきつすぎるのではないか。

委員：今の意見によると「最終製品のための全品検査による」ということではないか。

委員：もう少し分かりやすくするのなら「のみ」を削除すればよい。また、I種格付けの廃止に当たっては、できる限り早く認定の技術的基準を制定することと十分な経過期間を設けることが必要である。

事務局：ここは、全品検査が例外であることを強調するために全品検査「のみ」とした。責任の所在を明確にする観点から必要だと考えている。

委員：登録認定機関の廃止・取消に関して、現在有機の登録認定機関が次々と廃止しているが、廃止した機関名の入ったマークを付した商品が流通している。これは問題ではないか。今後、農林水産消費技術センターが暫定的に監査を行った場合、消費技術センター名の入ったマークが流通することとなれば、皆が消費技術センターの名の入ったマークを欲しがると思う。このような点については、今後制度を具体化していく中で検討していただきたい。

委員：登録認定機関の登録取消（p 11）の「このようなやむを得ない場合」という表現については、表現を明確にする観点から「このような事業者が責めを負う理由がない場合」と修正されたい。

事務局：意見を踏まえた書きぶりを工夫する。

座長：「品質表示基準のあり方」について、ご意見、ご質問等はないか。

委員：「根拠書類の保持」については、生鮮食品の流通の実態を踏まえて検討を行っていただきたい。

委員：カタログやホームページへの表示規制の対象の拡大については、流通や業界の実態を踏まえて対応していただきたい。品質表示基準の名称と定義は非常に重要であり、表示規制がまがい物の防止など消費者の商品選択に相当役に立っていると思われるので、慎重に対応してほしい。また、個別の品質表示基準の

見直しについても、「５年ごとの見直しの中で」と加えていただきたい。

事務局：規格については５年ごとに見直すことが定められているが、規格がなく品質表示基準のみが定められた品目もあるので、「５年ごとの見直し」と書くのは適当でない。規格と品質表示基準の見直しはＪＡＳ調査会で検討する旨の記述を加えたので、ご意見の趣旨はここに含まれると考えている。

委員：p 18の図の矢印について、「品目横断的な品質表示基準による規制」の欄から「標準規格による名称の拠り所を設定」の欄へも矢印が必要なのではないか。

事務局：図のとらえ方による違いだと思う。この図は名称の定義が今後どうなるのかという観点で作成しているので、このようになっている。

委員：努力して品質格差が小さくなったら規格を廃止、ということにならないようにしていただきたい。

事務局：「特色規格」について、業界で努力して太宗の製品が規格に適合するようになった場合、製品の品質が下がることによって品質の格差が生じるのはおかしい。規格改正によりのレベルを引き上げることで特色を明確にするという考え方を示している。

委員：「品質の格差が小さい。」は厳しいので、「品質の格差は極めて小さい」としたらよいのではないか。この方が廃止の理由が明確になるのではないか。また「立体的なもの」の意味が分かりにくい。

委員：大方の製品が「特色規格」に適合したら、それはもう特色ではないということとよいと思う。例えばエコマークは市場の５０％を超えたらマークの対象から外れることになっているはずである。

委員：「立体的な」は「多次元的な」としてはどうか。

座長：イメージができるので「立体的な」で良いのではないか。

事務局：修文の確認を行う。段落分けは工夫し、文章がわかりにくいという意見に対しては概要とポンチ絵で対応する。特色規格の説明（p 4）についてはp 8と同じ書きぶりで修正。標準規格の説明（p 4）で、「水増し、まがい物」の次に抜け落ちている「等」を追加する。流通ＪＡＳ（p 5）については「制度の整備を検討」と修正する。ＪＡＳマークの種類（p 7）の次に「デザイン」を追加し、「視覚的に消費者にアピールする」と修正する。標準規格における定義の説明（p 8）については、趣旨が明確になるよう修正する。登録認定機関の登録取消（p 11）の部分で、「やむを得ない場合」は「事業者が責任を負うことがない場合」に修正する。

座長：異論はあるか。

委員：p 14の「のみ」を削除すると何が問題なのか。

事務局：ここの文章は読み方が難しい。「事業者認定による生産行程」にすべきだとなっているが、極めて例外的な「全品検査」を入れているので、「のみ」を入れないとわからない。

座長：中間取りまとめについて最終的な文言の確認は、座長一任でよろしいか。最後に、消費・安全局長からひと言いただくとともに、今後の取り組み方について事務局から説明をお願いする。

(消費・安全局長から御礼の挨拶)

事務局：本日ご了解いただきました中間取りまとめ(案)については、先ほど座長からご説明があったとおり、所要の修正を加え、座長に最終確認をいただいた上で、今週中を目途に委員の皆様へ「中間取りまとめ」をお送りするとともに、公表し、パブリックコメントの募集を開始する予定。

また、来月から、全国9ヶ所で「中間取りまとめ」の説明会を実施する予定。詳細は「中間取りまとめ」の公表時に、併せてご案内する。

その後、広く頂戴したご意見を踏まえ、事務局で最終報告書(案)を作成。9月下旬から10月上旬を目途に第9回JAS制度のあり方検討会を開催し、最終報告書(案)につきましてご議論いただければと考えている。

(以上)

(本議事概要については、今後一部修正が入る場合があります。)